

介護保険事業計画に記載した「取組と目標」等の取組状況及び自己評価結果等（令和3年度分）

市町村名
津山市

◎ 市町村介護保険事業計画に記載した「取組と目標」に関する評価等

1 自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
重度化防止	地域ケア個別会議	開催回数50回	週1回の開催を基本として実施。蔓延防止措置期間中は開催を見合わせたことにより、45回の開催となった。	自立支援型会議として定着している。ケアマネがアセスメントを実施する際に、リハビリ専門職が同行訪問する取り組みを実施し、アセスメント力向上を図った。週1回の頻度で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大等に伴い会議を中止したことで開催回数が減少した。	会議の開催は自立支援型プラン作成に寄与しているものの、事例提供するケアマネの業務負担となっている。自立支援型プラン作成の意識が定着したこともあり、今後は会議で検討する事例数や開催頻度の縮小を検討する。
介護予防	小地域ケア会議	設置箇所数44箇所	令和3年度に2箇所立ち上がり34箇所となった。	コロナ禍のため、地域活動の自粛が余儀なくされたが、特定の地域へ重点的に働きかけを行ったことや、職員研修により支援者側の質向上に努めたことで、2箇所の立ち上げを行うことができた。	行政の押しつけではなく、あくまでも住民主体の自主的な設置・運営となるよう、働きかけを行っていく。そのためには、小地域ケア会議の意義が理解されるよう、内容や成果等を広く広報するとともに、小地域ケア会議交流会や各種研修会などでPRを行い、個別に働きかけを行う。
介護予防	医療・介護連携研修会	開催回数4回	市民が、住み慣れた地域でその人らしい生活が人生の最期まで続けることができるように、医療と介護が切れ目なく提供される体制を整備していくために、関係職種の連携、質の向上に係る研修会を開催した。また、これに合わせて市民への情報提供に努めた。 医療・介護連携研修会：4回開催。	多くの方から要望されていた多職種連携・資質向上を推進するための研修会を実施。多くの声を取り入れて研修を開催したことで目標を達成することができた。	これまでの要望・意見を踏まえ、研修会を整理し、医療・介護の連携強化を図る。

介護予防	介護予防に関するボランティアの育成	生活支援サポーター養成講座受講者数80人	生活支援サポーター養成講座未実施	生活支援サポーター養成講座は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため実施を控えたが、生活支援コーディネーターと協力して一部圏域のサポーターに対してフォローアップ研修及び情報交換会を実施した。	生活支援サポーター事業の周知を図る。養成講座は、生活支援サポーター訪問サービス実施団体による日常生活圏域ごとの開催を予定。
介護予防	通いの場の支援	こけないからだ講座設置数227箇所	新規立上げ地区:1箇所 年度末設置数:213箇所	緊急事態宣言発出等により、活動の自粛を依頼する期間が続いたことから、新規立上げの働きかけは控えたため、新規立上げ地区は1箇所にとどまる。既存のグループに対しては、例年実施していた訪問はできなかったが、要望に応じて体操指導や体力測定の実施を行った。また、自粛期間中に自宅でも体操が継続できるように、体操DVDの貸出しや、YouTubeによる体操動画配信の紹介を行った。	新規加入者が少ないグループは、メンバーが高齢化しており、グループの存続が困難となっている。高齢者の興味関心が、現在の一般介護予防事業「こけないからだ講座」の枠組みと一致しないことが考えられる。既存グループへの支援は継続しつつも、枠組みの見直しや新たな通いの場の創出を検討する。
介護予防	通いの場の支援	ふらっとカフェ設置数80箇所	新規立上げ:1箇所 年度末設置数:28箇所	新型コロナウイルス感染所拡大防止のため、新規立上げの働きかけを控えていたため、新規立上げ地区は1箇所にとどまった。活動グループの交流会を実施し、コロナ禍における活動等についてグループ間で情報交換を行った。	カフェ設置のための支援メニューを再度検討し、設置数増を図る。また、設置の趣旨を考慮して啓発活動の手法を検討する。

自立支援	認知症の家族の支援	認知症カフェ設置数 6箇所	新規1箇所の認知症カフェ設置に向け、設置済みカフェと、立ち上げに関心がある団体等を対象に、交流会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催方法の検討も行ったが、延期となった。既存のカフェの活動継続が厳しい状況が確認されたため、カフェの運営に関する相談支援に努めた。 年度末設置数:4箇所(1箇所は休止となり減)。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により新規設置には至らなかったが、既存のカフェ運営の相談支援を実施した。	感染症拡大の影響により既存のカフェの活動が行えない状況が続いている。感染に留意しつつ活動を継続していく工夫や、活動事例を既存のカフェと共有するなど、活動継続に資する支援も必要となっている。感染拡大の状況を注視しながら、新規立ち上げについても検討していく。
自立支援	自立支援に関するボランティアの育成	認知症サポーター養成講座受講人数1,000人	企業、学校など幅広い市民を対象とした養成講座を開催し、認知症への理解の普及、ネットワークの拡大を図った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していた講座が中止となる等の影響があった。規模や参加人数を縮小することで講座を開催し、中止となった講座については延期として感染が落ち着いた時期にするなど対応を行った。 開催:27回 受講人数:642人	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催が中止や延期となった講座があったため、目標の受講人数は達成できなかったが、開催方法を工夫し養成を行った。	感染症に留意しながら新規受講者の拡大を図る。また、受講者へ認知症に関する活動の場を情報提供し、繋げていく。

2 介護給付の適正化に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
給付適正化	要介護認定に係る調査票点検	実施率 100%	5,406件の認定調査全ての調査票点検を実施した。	目標を達成し、適切な介護認定審査に資することができた。	引き続き、全数調査票点検を実施する。
給付適正化	調査員・認定審査会研修	開催回数 6回	2か月に1回程度市の調査員ミーティングを開催し、合わせて調査員研修を実施(5回)。認定審査会委員研修を開催(1回)。	目標回数を達成し、介護認定の適正化を図れた。	引き続き、手法を検討しながら研修会を実施していく。

給付適正化	ケアプラン点検	実施件数600件	プラン点検834件実施。コロナ禍でアドバイザー派遣事業は中止となったが、事業所への書面点検を継続実施した。	目標達成し、プランの適正化を図ることができた。	研修や実地指導でプラン点検を実施。昨年はアドバイザー派遣事業がコロナ禍で中止となったが早めに希望をとって4事業所実施予定。
給付適正化	住宅改修の着工前点検	実施率100%	全件について工事前後の書類による点検を実施した。	目標を達成し、適切な住宅改修を図ることができた。	建築、リハビリテーション等の研修を受けるなど、担当者の資質の向上を図る。
給付適正化	介護給付費通知	実施率100%	全件について介護給付費通知を発送した。	目標を達成し、介護給付についての情報を本人に知らせることができた。	引き続き、介護給付費通知を発送する。